

■展示案内



館内1階に再現した明治期の授業風景



明治9年の修業証書
6ヶ月ごとの進級試験に合格した者に
渡されました。



児童の図画作品



下等小學習字臨本
見付学校の教員たちが編集し、見付町の古澤書店で発行された教科書です。



朱墨で添削された習字作品



石盤
まだ紙が貴重だった頃に使用しました。

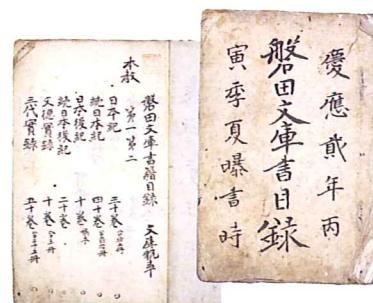
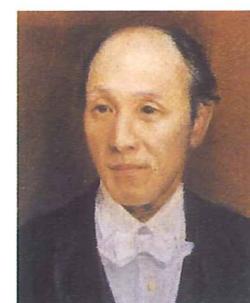


就学札
見付学校の在学証明書のようなもの。
児童の衣類に付けさせ、就学を促しました。

磐田文庫と大久保家

大久保家は旧見付学校の西側にあり、元亀元年(1570)より代々淡海国玉神社の神官を務めてきました。13代・大久保忠尚は、国学の祖・賀茂真淵の流れをくむ幕末の国学者であり、私宅にて私塾を開いて近隣子弟の教育に努め、元治元年(1864)4月に磐田文庫を創設しました。磐田文庫は、間口3間1尺、奥行2間1尺、木造井戸組2階建で、多くの門下生などが利用していました。

なお、見付学校建設を推進した区長兼学区取締・古澤脩をはじめとする町の有力者の多くが忠尚の門下生であり、学校敷地を寄付した14代・大久保忠利とともに見付学校の運営に尽力しました。



磐田文庫目録

■入館利用案内

- 入場料 無料
- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日または振替休日に当たるときは開館)、国民の祝日の翌日(ただしこの日が土・日・月曜日に当たるときは火曜日が休み)、年末年始(12月29日～1月3日)



■交通のご案内

- ◇JR磐田駅前バスターミナル②番のりば
遠鉄バス⑬「磐田市立病院・大藤・神増原行き」、⑭「磐田市立病院・山梨行き」
乗車、「旧見付学校」下車徒歩1分
- 秋葉バス「遠州森町行き」乗車、「見付学校前」下車徒歩1分
- ◇JR磐田駅前バスターミナル①番のりば
遠鉄バス「遠鉄磐田営業所見付行き」乗車、「新通町」下車徒歩5分

国史跡 旧見付学校 磐田文庫

Historical Site
The Mitsuke School
Iwata Library



磐田文庫



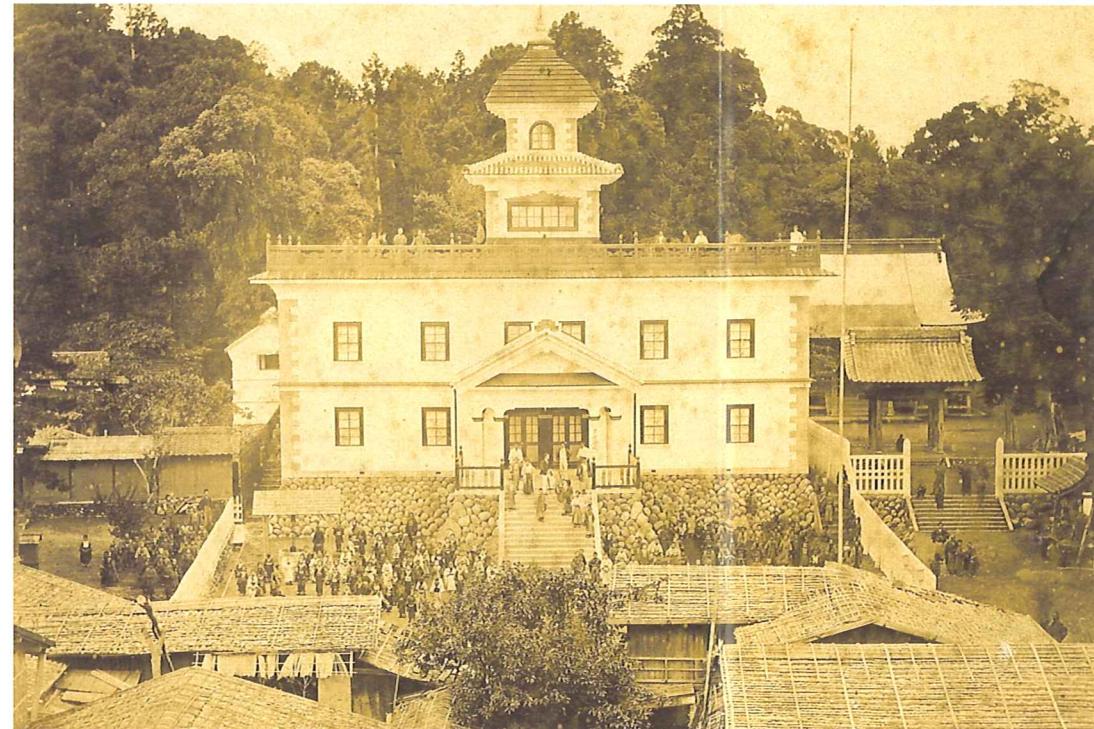
磐田市旧見付学校

〒438-0086 静岡県磐田市見付2452
TEL・FAX (0538)32-4511 [E-mail] iwata-mitsuke@uv.tnc.ne.jp

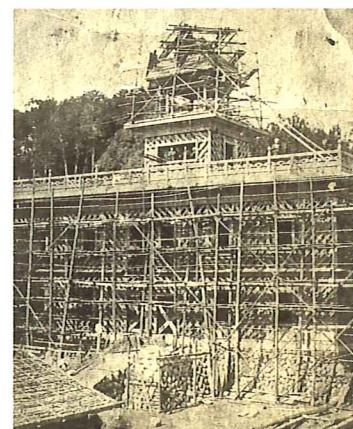
見付学校の開校

明治5年(1872年)の学制発布を受け、見付学校は翌年8月に宣光寺、省光寺などを仮校舎として開校しました。同時に淡海國玉神社神官・大久保忠利、長兼学区取締・古澤脩らを中心とした町の有力者の協力によって資金調達が行われ、新校舎の建設が進められました。

新築工事は、名古屋の堂宮棟梁・伊藤平右衛門(後の9代目伊藤平左衛門)に委嘱し、明治7年(1874年)10月に工事着手、翌年1月11日に上棟式を行い、8月7日に落成、開校式を挙げました。



明治8年(1875年)8月7日に落成、開校式を挙げた見付学校



建築中の見付学校校舎



(表)



(裏)

校舎の特徴

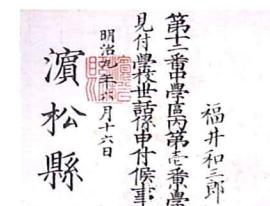
新築された校舎は、基礎石垣積みの上に木造擬洋風2階建てで、規模は間口12間(21.8m)、奥行5間(9.1m)、屋上に二層の棟が重ねられ、二階二層となっていました。正面には伊豆石の石段が設けられ、玄関はエンタシス様式に近似した飾り柱を配しています。基礎の石垣は遠州横須賀城のものだと伝えられています。



見付学校建築棟梁
伊藤平右衛門



伝酒井之太鼓
酒井忠次が徳川家康の窮地を救ったと伝えられる太鼓です。見付の町民がこれを買い受け、見付学校の開校を祝して寄贈しました。

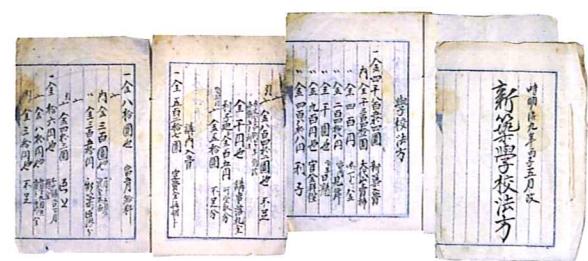


学校世話係申付書



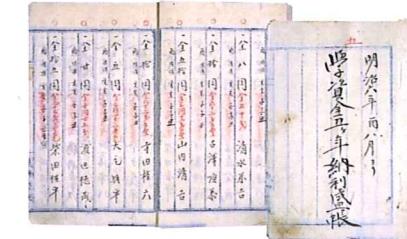
見付学校開校を祝って浜松県令・林厚徳から寄贈された扁額

「木縄を受ければ則ち直く、金礪に就けば則ち利し。」中国の『荀子』勸学編の文中の一節で、曲がった木も墨縄を当てて切れば真っ直ぐに切れ、金物も砥石で磨けば切れるようになるという意味です。



新築学校法方

学校世話係・福井和三郎の記録した建築経費の古文書とその内容です。新築に要した経費は4,854円で、その資金は大代山の売払金、御下金(補助金)のほか、町民の寄付によるものです。



学資金五箇年納利
盛帳

明治6年8月から学校建築資金を町民から募りました。最高130円、108口、119名が記されています。

旧見付学校の沿革

(制度)	(明治6年) 下等小学4年 上等小学4年	(明治15年) 初等科3年 中等科3年 高等科2年	(明治19年) 尋常科4年 高等科2~4年	(明治40年) 尋常科6年 高等科2~3年	(昭和16年) 初等科6年 高等科2年	(昭和22年) 小学校6年 中学校3年
1872 明治5年 8月 学制発布(太政官布告第214号)						
1873 明治6年 8月 見付学校、宣光寺・省光寺などを仮校舎として開校						
1874 明治7年10月 見付学校新築工事着手						
1875 明治8年 1月 上棟式挙行						
8月 見付学校四階校舎落成式挙行						
1876 明治9年 9月 四階校舎東側に第一副築校舎新築						
1883 明治16年 8月 四階校舎の3階部分を増築、5階校舎となる						
1885 明治18年 9月 東側第一副築校舎の2階部分を増築						
1887 明治20年 7月 見付学校を見付尋常小学校と改称						
1897 明治30年 3月 塔之堀運動場に第二副築校舎を新築し、付属幼稚園開設						
1902 明治35年 4月 付属幼稚園を金剛寺に移転、第二副築校舎を尋常小学校が使用						
1904 明治37年 寻常科の授業料徴収を廃止						
1908 明治41年 4月 見付尋常小学校を見付尋常高等小学校(男子部)と見付女子尋常高等小学校の2校とする、女子部は五階校舎、男子部は鐘錶校舎						
1913 大正2年 9月 見付女子尋常高等小学校を城之腰に新築移転、付属幼稚園も金剛寺より城之腰に移転						
1914 大正3年 7月 見付尋常高等小学校(男子部の一部)五階校舎を使用						
1922 大正11年 4月 五階校舎は小学校校舎としての使用を終える						
静岡県立見付中学校校舎(五階校舎を借用して一学期間使用)						
8月 大日本見付練武館(柔道場)五階校舎で開館						
1925 大正14年 3月 私立見付高等裁縫女学校・五階校舎も移転使用						
見付第一尋常高等小学校・見付第二尋常高等小学校が合併、見付町立尋常高等小学校と改称(全町児童城之腰校舎に一斉収容)						
1939 昭和14年 9月 磐田郡教育会施設准教員養成所、五階校舎に移転使用						
1942 昭和17年 4月 准教員養成所を磐田郡高等国民修練所と改称(翌年3月廃止)						
1945 昭和20年 4月 浜松陸軍病院見付臨時分院、五階校舎で開院						
1946 昭和21年 5月 国民健康保険組合立磐田病院、五階校舎で開院						
1953 昭和28年 9月 磐田市立郷土館、五階校舎で開館						
1969 昭和44年 4月 五階校舎、磐田文庫とともに国指定史跡となる						
1977 昭和52年 3月 五階校舎、解体保存修理工事完成(2ヶ月・8,000万円)						
1991 平成3年 2月 五階校舎、保存修理工事完成(6ヶ月・1,400万円)						
1992 平成4年 1月 磐田市立郷土館を磐田市旧見付学校と改称						
12月 磐田文庫解体復元工事完成(2ヶ月・4,800万円)						